

表1 登山道一覧表（地域別・公園計画番号別）

地域	H26管理水準 区間順		登山道			H25調査						
	連番	地域 番号	公園 計画	路線 番号	路線名	図上計測 延長	登山道現況		整備箇所検証	気温	利用者数	
							図上計測 実施延長	●全線実施 △一部実施	区間	温度計	カウンタ	
I 北大雪	1	I	計画	(2)	層雲峡ニセイカウシュツベ山線	8.1 km	7.8 km	△	—	—	—	
	2	I	計画	(4)	層雲峡銀河流星ノ滝線	0.1 km	0.1 km	●	—	—	—	
	3	I	計画	(5)	紅葉谷線	0.8 km	0.8 km	●	—	—	—	
II 表大雪	4	II	計画	(3)	層雲峡勇駒別線	24.7 km	24.7 km	●	1区間	2箇所・2基	—	
	5	II	計画外	(42)	桂月岳コース	0.4 km	0.4 km	●	—	—	—	
	6	II	計画	(6)	雲井ヶ原線	0.8 km	0.8 km	●	—	—	—	
	7	II	計画	(7)	愛山溪北鎮岳線	10.2 km	10.2 km	●	1区間	—	—	
	8	II	計画外	(43)	愛別岳コース	1.1 km	1.1 km	●	—	—	—	
	9	II	計画	(8)	松仙園線	5.9 km	5.9 km	●	—	—	—	
	10	II	計画	(9)	沼ノ平姿見の池線	7.3 km	7.3 km	●	2区間	—	—	
	11	II	計画	(10)	当麻岳線	2.7 km	2.7 km	●	—	—	—	
	12	II	計画	(11)	中岳裾合平線	2.7 km	2.7 km	●	—	—	—	
	13	II	計画	(18)	勇駒別周回線	8.0 km	8.0 km	●	—	—	—	
	14	II	計画	(19)	天人峡勇駒別線	4.8 km	4.8 km	●	—	—	—	
	15	II	計画	(20)	羽衣敷島の滝線	1.4 km	0.0 km	×全線不実施	—	—	—	
	III 高根ヶ原	16	III	計画	(12)	大雪山縦走線	11.6 km	11.6 km	●	—	1箇所・1基	—
		17	III	計画	(13)	銀泉台白雲岳線	6.5 km	6.5 km	●	—	—	—
		18	III	計画	(14)	高原温泉小泉岳線	6.4 km	6.4 km	●	—	—	—
IV トムラウシ山系	19	III	計画	(15)	高原温泉高根ヶ原線	7.0 km	7.0 km	●	—	—	1箇所・3基	
	16'	IV	計画	(12)	大雪山縦走線	29.2 km	29.2 km	(●再掲)	—	3箇所・3基	1箇所・1基	
	20	IV	計画外	(46)	三川台コース	9.3 km	9.3 km	●	—	—	1箇所・1基	
	21	IV	計画	(17)	ヤンベタツプ五色岳線	19.5 km	19.5 km	●	1区間	—	—	
	22	IV	計画	(21)	天人峡化雲岳線	11.4 km	11.4 km	●	—	—	—	
	23	IV	計画外	(47)	トムラウシ短縮コース	1.0 km	1.0 km	●	—	—	—	
	24	IV	計画	(37)	トムラウシ山線	13.1 km	11.3 km	△閉鎖旧道除く	1区間	—	—	
	25	IV	計画	(38)	トムラウシ温泉周回線	3.9 km	3.1 km	△	—	—	—	
	26	IV	計画	(40)	曙橋沼ノ原線	4.2 km	0.0 km	×全線不実施	—	—	—	
V 十勝岳	27	IV	計画	(29)	石狩連峰縦走線	0.8 km	0.8 km	●	—	—	—	
	16''	V	計画	(12)	大雪山縦走線	22.7 km	22.7 km	(●再掲)	—	1箇所・1基	1箇所・1基	
	28	V	計画	(22)	美瑛富士線	8.1 km	8.1 km	●	—	1箇所・1基	1箇所・1基	
	29	V	計画	(23)	白銀温泉十勝岳線	8.1 km	8.1 km	●	—	1箇所・1基	1箇所・1基	
	30	V	計画	(24)	展望台十勝岳温泉線	4.1 km	4.1 km	●	—	—	—	
	31	V	計画	(25)	美瑛岳線	6.3 km	6.3 km	●	—	—	1箇所・1基	
	32	V	計画	(26)	三段山線	4.7 km	4.7 km	●	—	—	—	
	33	V	計画	(27)	富良野岳上ホロカメットク山線	6.0 km	6.0 km	●	—	—	1箇所・1基	
	34	V	計画	(39)	曙橋十勝岳線	7.0 km	7.0 km	●	—	—	—	
	35	V	計画	(1)	原始ヶ原線	3.3 km	1.9 km	△	—	—	—	
VI 東大雪	36	V	計画外	(45)	沢(滝)コース	3.2 km	0.0 km	×全線不実施	—	—	—	
	37	VI	計画	(16)	三国沢ユニ石狩岳線	3.6 km	1.4 km	△	—	—	—	
	27'	VI	計画	(29)	石狩連峰縦走線	22.1 km	22.1 km	(●再掲)	—	—	—	
	38	VI	計画	(28)	十勝三股ニベソツ山線	16.0 km	9.6 km	△	—	1箇所・1基	—	
	39	VI	計画	(30)	糠平ウペベサンケ山線	7.1 km	7.0 km	△登山口部除く	—	—	—	
	40	VI	計画	(32)	然別峡ウペベサンケ山線	2.1 km	0.0 km	×全線不実施	—	—	—	
VII 糠平然別	41	VI	計画外	(44)	菅野温泉西コース	4.4 km	0.0 km	×全線不実施	—	—	—	
	42	VII	計画	(31)	糠平天宝山線	1.0 km	1.0 km	●	—	—	—	
	43	VII	計画	(41)	北海道自然歩道線	12.5 km	8.2 km	△	—	—	—	
	44	VII	計画	(33)	南ベトウトル山線	2.0 km	2.0 km	●	—	—	—	
	45	VII	計画	(34)	展望山周回線	10.6 km	10.6 km	●	—	—	—	
	46	VII	計画	(35)	駒止湖東ヌブカウシヌブリ線	2.2 km	2.2 km	●	—	—	—	
	47	VII	計画	(36)	西ヌブカウシヌブリ線	1.7 km	1.7 km	●	—	—	—	
計						361.6 km	329.3 km	●全線:34路線 △一部: 8路線	6区間	10箇所 10基	8箇所 10基	
H25調査実施期間(区間・箇所毎に期間は異なる)							8/5~10/9 (事前調査7/9~7/13)		8/10~一部継続		8/21~11/1	

※行背景色の塗分け=地域別を示す。 赤字=地域分割された路線(12)を示す。 青字=地域分割された路線(29)を示す。 緑字=計画外の路線を示す。

表2-1 H26管理水準 保護・利用体験ランクの区間への適用の考え方

考慮する項目	保護・利用体験ランク					備考
	A+	A-	B+	B-	C	
リスク（危険性）	高い				低い	
登山口からの距離	遠い				近い	【目安】 A+・A-：山中泊 B+・B-：日帰り C：半日
避難小屋 エスケープルート	なし	あり	考慮せず			
気象条件	極めて厳しい		比較的穏やか			
ルート不明瞭	あり			なし		
観光・ツアー利用	想定なし	登山ツアー		エコツアー	観光	
原始性・利便性	原始性（高）				利便性	

注1) 区間によっては、保護・利用体験ランクに『(A+)』～『(C)』のような()付のランクがあります。これは現状と理想・将来を考慮したものです。大きく2つのパターンとして、
 (例1) 『B+』を目指す意図で『(B+)』
 (例2) 『B+』を目指す意図で『(A-)』
 があります。
 その考え方は区間毎に異なりますので、適用表に記します。

注2) 非適用とした区間について
 ・現状で利用不可(通行止等)であり、かつ、再開目処が無い・管理者不在等。
 ・再開の目処や管理者が定まった場合は改めてランク付けを行う。

表2-2 H26管理水準 保全対策ランクの区間への適用の考え方

記号	保全対策ランクの区間への適用の要素等
I	<p>■要素⑦～⑩に該当する区間に『I』を適用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脆弱高 ・侵食大 ・潜在侵食性大 <p>(基本とする2要素)</p> <p>要素⑦「路体が崩壊し、放置することにより登山道、登山道利用そのものの機能が失われる可能性が高い」</p> <p>≪関連項目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒廃：侵食・洗掘 ・地形：急峻 ・地質：脆弱（特に脆いスコリア系） ・利用：踏圧等 <p>要素⑧「植生への（深刻な）影響が出ている、あるいは、放置すれば出る、それがある程度予想される」</p> <p>≪関連項目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒廃：植生荒廃 ・植生：希少植生、湿原、雪田草原 ・木道：木道老朽化・機能不全 ・利用：踏圧、木道はみ出し <p>(その他の要素)</p> <p>要素⑨「保護利用体験ランクに対応する利便性の確保、避難路としての機能の確保に著しい支障が生じている」</p> <p>≪関連項目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者面からの歩きにくさ、緊急時・退避時の歩きにくさ：ぬかるみ・水溜り ・利用：一般的な利用者が多い
II	<p>■要素⑦～⑩に該当しない区間に『II』を適用する。 但し、下記『III』を適用する区間を除く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脆弱高 ・侵食小 ・潜在侵食性大
III	<p>■歩道として問題のない区間で保全対策が必要ない区間、あるいは、保全対策（整備）の効果により問題が解消したと評価される区間。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脆弱低 ・侵食小 ・潜在侵食性小

(注記)

荒廃といった項目は、ピンポイントとしても、区間全体としても、評価できますが、ここでは、分岐～分岐という単位区間の中で、一定の規模で連続していたり、一箇所であっても大規模な場合をピックアップする形で、当該区間全体として評価し、ランクの適用や区間分割の仕方に反映させました。

これら以外に、点々としているような荒廃等は、管理水準の適用とは別個に考慮します。

表3 H26管理水準・変更素案 適用表 (1/10) << I. 北大雪地域 >> ・ << II. 表大雪地域 その1 >>

地域	H17管理水準				H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)							
	管理水準 区間番号	管理水準 区間	保護・ 利用体験	保全 対策	管理 水準 区間 番号	管理水準区間	管理水準区間の詳細	公園 計画 路線 番号	延長 (図上計測) ※四捨五入に より合計が合 わない場合が ある	保護・ 利用 体験 ランク (図1)	保全 対策 ランク (図2)	
I 北大雪	1	層雲峡～ 朝陽山	B	II	No1-1	層雲峡園地パノラマ台入口 ⇒パノラマ台	層雲峡園地パノラマ台入口⇒パ ノラマ台登山口⇒パノラマ台分 岐 ----- [パノラマ台枝線] パノラマ台分岐⇒パノラマ台	(2)	1.0km	1.2km	B-	I
					No1-2	パノラマ台 ⇒朝陽山	パノラマ台分岐⇒H25調査中止地 点(1340m) ----- H25調査中止地点(1340m)⇒朝陽 山	(2)	0.2km			
	2	ニセイカ ウシュッ ペ山～公 園界	B	III	No2	茅刈別右ノ沢登山口 ⇒ニセイカウシュッペ山	茅刈別右ノ沢登山口⇒ニセイカ ウシュッペ山	(2)	5.4km	5.4km	B+	II
	3	層雲峡銀 河流星ノ 滝線	C	III	No3	銀河流星ノ滝園地	銀河流星ノ滝園地	(4)	0.1km	0.1km	C	III
4	紅葉谷線	C	III	No4	紅葉谷散策道入口 ⇒紅葉谷の滝	紅葉谷散策道入口⇒紅葉谷の滝	(5)	0.8km	0.8km	C	III	
II 表大雪	5	層雲峡～ (ロープ ウェイ終 点)～黒岳	B	II	No5	層雲峡黒岳林道口 ⇒黒岳	層雲峡黒岳林道口⇒層雲峡黒岳 登山口分岐 ----- 層雲峡黒岳登山口分岐⇒黒岳	(3)	0.2km	4.4km	B-	II
	6	黒岳～北 海岳～間 宮岳～旭 岳	B	II	No6-1	黒岳 ⇒黒岳石室分岐	黒岳⇒黒岳石室分岐	(3)	0.8km			
					No6-2	黒岳石室分岐 ⇒北海岳分岐	黒岳石室分岐⇒北海岳分岐	(3)	2.7km	2.7km	B+	I
					No6-3	北海岳分岐 ⇒間宮岳分岐	北海岳分岐⇒間宮岳分岐	(3)	2.1km	2.1km	B+	II
					No6-4	間宮岳分岐 ⇒旭岳	間宮岳分岐⇒旭岳	(3)	1.9km	1.9km	B+	I
	7	黒岳石室 ～雲ノ平 ～中岳分 岐	B	II	No7-1	黒岳石室分岐 ⇒中岳分岐	黒岳石室分岐⇒北鎮岳分岐⇒中 岳分岐	(3)	4.1km	4.1km	B+	II
	対象外	桂月岳 コース	対象外	対象外	No7-2	黒岳石室分岐 ⇒桂月岳	黒岳石室分岐⇒桂月岳	(42)	0.4km	0.4km	B+	II

※H17管理水準対象外路線を、地理的位置により表に組み込み、区間番号を振ってあります(仮の枝番です)。

変更内容	前回調査(H13-15)時からの変化			
<p>○ : 第1回部会でのH17からの変更 ● : 第2回部会での変更・付記 ※ : その他</p>	<p>荒廃 状況</p>	<p>歩道 整備</p>	<p>維持 管理</p>	<p>利用 環境</p>
<p>●層雲峡における整備された半日ルートが望ましく第1回案『C・II』だが、刈払しても急斜面で誰でも行けるわけではなく、パノラマ台は断崖で危険性が高く柵設置等対策は物理的に困難。管理に当たり地元の協力も必要となる。よって第1回案『C』でなく、『B-』を目指す意図で『(B-)』。 ●保全対策は、荒廃が集中し道利用の消失につながる恐れがあるため『II』でなく『I』。</p>	<p>登山口付近の侵食著しい。倒木多くヤブ化。ルート付替え(一部区間)</p>	<p>入口看板</p>	<p>手薄</p>	<p>標高1340m付近で通行止</p>
<p>●ルート不明瞭な区間であり、当面、第1回案どおり非適用とする(パノラマ台までの区間をきちんと管理した上で、地元の協力が得られるようであれば開けることを考える)。</p>				
<p>●保全対策は、ニセイ側(上部側)のぬかみを勘案し全線を、第1回案『III』ではなく『II』とする。</p>	<p>全線に亘り軽度の侵食</p>	<p>特になし</p>	<p>良</p>	<p>アクセス林道(古金砂金越林道)に施錠ゲート</p>
<p>○H17に同じ。</p>	<p>荒廃なし</p>	<p>特になし</p>	<p>良</p>	<p>変化なし</p>
<p>○H17に同じ。</p>	<p>旧車道区間が侵食</p>	<p>入口看板</p>	<p>良</p>	<p>駐車場移動・エコツアー増加</p>
<p>○黒岳で自然条件が変わるため(黒岳以西・上部は天候急変)、黒岳で分割のままとし、一般観光客の利用、日帰コースとして長行程ではない『B-』。保全対策はH17に同じ『II』。 ●但し天候の件とは別に、黒岳石室がゴールの区間という考え方もある。分割点を黒岳とするか、黒岳石室とするかは保留(利用実態を勘案する)。</p>	<p>部分的に洗掘やや進行。歩道沿いの植生回復</p>	<p>石組、階段等(一部ハードル化)</p>	<p>良</p>	<p>高速道路開通</p>
<p>○長行程のため『B+』。 ●但し下記のとおり、保全対策ランクについて区間分割を行うため、個々の区間は比較的短い区間となる。 ●保全対策は、第1回案では全線を『I』としたが、分岐～分岐の単位で区間とし、路体崩壊につながる恐れのある荒廃が一定程度ある区間である(6-2)黒岳石室分岐⇒北海岳分岐と(6-4)間宮岳分岐⇒旭岳を『I』、それ以外の区間を『II』とする。 ●また、No5に記すとおり、No5とNo6の分割点を黒岳とするか、黒岳石室とするかは保留(利用実態を勘案する)。</p>	<p>赤石川～北海岳：侵食ひどい、旭岳～裏旭野営指定地：侵食ひどい、黒岳石室～赤石川：土留による土砂安定及び植生回復</p>	<p>石組、階段、土留(黒岳石室周辺)</p>	<p>良</p>	<p>黒岳石室にバイオトイレ新設</p>
<p>○長行程のため『B+』。荒廃の進行が著しい箇所もあるが土砂安定・植生回復も見られるため保全対策は『II』のまま。 ●「荒廃はあるが区間全体として深刻ではない」ことの確認。</p>	<p>黒岳石室～雲ノ平：侵食ひどく周辺植生への影響見られるが、土砂安定し植生回復した箇所もある</p>	<p>土留(老朽化)、(石室近く)</p>	<p>良</p>	<p>黒岳石室にバイオトイレ新設</p>
<p>○黒岳石室分岐～北鎮岳分岐～中岳分岐とランク同等。</p>	<p>侵食やや進行</p>	<p>なし</p>	<p>なし</p>	<p>変化なし</p>

表3 H26管理水準・変更素案 適用表 (2/10) << II. 表大雪地域 その2 >>

地域	H17管理水準				H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)							
	管理水準 区間 番号	管理水準 区間	保護・ 利用 体験	保全 対策	管理 水準 区間 番号	管理水準区間	管理水準区間の詳細	公園 計画 路線 番号	延長 (図上計測) ※四捨五入に より合計が合 わない場合が ある	保護・ 利用 体験 ランク (図1)	保全 対策 ランク (図2)	
II 表 大 雪	8	旭岳～勇 駒別	B	II	No8-1	姿見の池園地 ⇒旭岳	姿見の池園地⇒旭岳	(3)	2.0km	2.0km	B+	II
	9	姿見の池 周回線	C	III	No9	姿見の池園地	姿見の池園地 [噴気活動展望台枝線] 噴気活動展望台分岐⇒噴気活動 展望台 [第五展望台枝線] 第五展望台分岐⇒第五展望台	(3) (3) (3)	2.1km 0.1km 0.1km	2.3km	C	III
	8	旭岳～勇 駒別	B	II	No8-2	勇駒別園地 ⇒姿見の池園地	勇駒別園地⇒姿見の池園地	(3)	3.3km	3.3km	B-	II
	10	愛山溪～ 雲井ヶ原	B	II	No10	愛山溪雲井ヶ原登山口 ⇒雲井ヶ原湿原	愛山溪温泉雲井ヶ原登山口⇒雲 井ヶ原湿原	(6)	0.8km	0.8km	(C)	I
	13	愛山溪～ 沼ノ平分 岐	B	I	No13	愛山溪雲井ヶ原登山口 ⇒三十三曲分岐 ⇒沼ノ平分岐 ⇒滝ノ上分岐	[愛山溪温泉駐車場等部] 愛山溪温泉雲井ヶ原登山口⇒愛 山溪温泉主稜線登山口 愛山溪温泉主稜線登山口⇒松仙 園分岐 松仙園分岐⇒三十三曲分岐 三十三曲分岐⇒(右・西回り)⇒沼 ノ平分岐 三十三曲分岐⇒(左・東回り)⇒滝 ノ上分岐	(7) (7) (7) (7) (7)	0.1km 0.1km 0.9km 1.4km 1.6km	4.1km	B-	II
	12	沼ノ平分 岐～比布 岳～北鎮 岳～お鉢 平分岐	B	III	No12-1	沼ノ平分岐 ⇒滝ノ上分岐 【No13と共に周回構成】	沼ノ平分岐⇒滝ノ上分岐	(7)	0.3km	0.3km	B-	II
					No12-2	滝ノ上分岐 ⇒安足間岳分岐	滝ノ上分岐⇒永山岳⇒安足間岳 分岐	(7)	2.9km	2.9km	B+	II
					No12-3	安足間岳分岐 ⇒北鎮岳	安足間岳分岐⇒愛別岳分岐⇒北 鎮岳	(7)	2.6km	2.6km	A-	II
	対象 外	愛別岳 コース	対象 外	対象 外	No12-4	愛別岳分岐 ⇒愛別岳	愛別岳分岐⇒愛別岳	(43)	1.1km	1.1km	A-	II
	12	沼ノ平分 岐～比布 岳～北鎮 岳～お鉢 平分岐	B	III	No12-5	北鎮岳分岐 ⇒北鎮岳	北鎮岳分岐⇒北鎮岳	(7)	0.4km	0.4km	B+	II

※H17管理水準対象外路線を、地理的位置により表に組み込み、区間番号を振ってあります(仮の枝番です)。

※今回の区間分割を明確にするため、区間順序を組み替えてあります(区間番号が前後しています)。

変更内容	前回調査(H13-15)時からの変化			
<p>○ : 第1回部会でのH17からの変更 ● : 第2回部会での変更・付記 ※ : その他</p>	荒廃状況	歩道整備	維持管理	利用環境
<p>○ 姿見の池園地は、一般の観光利用なのでH17どおり。</p> <p>● 姿見の池園地の上部と下部については、黒岳側より難易度が高い、また下部の旭岳温泉側の方が難易度が高いといったことから、下部を基準に上部も含めてを全線を『B+』とした。 しかし旭岳側は天候変化・濃霧に注意すべき区間であり、下部の旭岳温泉側はRWが利用可能であるなどの理由から姿見の池園地の上部と下部に区間分割した上で、上部側は第1回案どおり『B+』とするが、下部側は第1回案『B+』でなく『B-』とする。</p> <p>※ 姿見の池園地に係る区間の分割地点名は『姿見の池園地』で統一する。</p>	<p>大きな変化はない、概ね良好、旭岳～金庫岩：侵食やや進行、木道一部老朽化、勇駒別登山口付近ヤブ化</p>	<p>階段、木道（一部老朽化）</p>	<p>概ね良</p>	<p>姿見石室、携帯トイレブース</p>
<p>● 姿見の池園地の上部と下部については、黒岳側より難易度が高い、また下部の旭岳温泉側の方が難易度が高いといったことから、下部を基準に上部も含めてを全線を『B+』とした。 しかし旭岳側は天候変化・濃霧に注意すべき区間であり、下部の旭岳温泉側はRWが利用可能であるなどの理由から姿見の池園地の上部と下部に区間分割した上で、上部側は第1回案どおり『B+』とするが、下部側は第1回案『B+』でなく『B-』とする。</p> <p>※ 姿見の池園地に係る区間の分割地点名は『姿見の池園地』で統一する。</p>	<p>軽い侵食見られるが良好、手摺破損、段差が大きい箇所ではロープにつかまる高齢者あり</p>	<p>木製デッキ整備</p>	<p>極良</p>	<p>RW姿見駅でレクチャー実施</p>
(二行上に同一)				
<p>● 木道再整備予定であるため、第1回案『C』を目指す意図で『(C)』とする。 ● 保全対策は植生への影響から、第1回案『I』とする。</p>	<p>下部区間で軽度の侵食、倒木あり、木道・デッキの老朽化が著しい</p>	<p>木道、階段、デッキ（老朽化）</p>	<p>手薄</p>	<p>変化なし</p>
<p>○ 通常の日帰コースとして『B-』とするが、水溜りで歩きにくい箇所もあることから保全対策は『II』とする。 ● 但し、三十三曲分岐⇒(右・西回り)⇒沼ノ平分岐は、整備の効果により安定していることから、保全対策ランクについて『III』という考え方もある。 ● 同じく、三十三曲分岐⇒(左・東回り)⇒滝ノ上分岐は、現状と管理が手薄の点から、保護・利用体験ランクについて『B+』という考え方もある。</p> <p>● また、『沼ノ平分岐⇒滝ノ上分岐』を安足間岳方面から分離し、本区間の三十三曲方面と一体化して周回線とする。 よって『沼ノ平分岐⇒滝ノ上分岐』は、第1回案『B+』でなく『B-』とする。</p>	<p>尾根道は階段や石組整備により安定したが、水溜り多数で歩きにくい、谷道は要所を付け替え安定</p>	<p>階段、石組、橋</p>	<p>良</p>	<p>変化なし</p>
<p>○ 距離は長い、日帰り利用が多い、自然環境の脆弱・潜在性・荒廃より『B+・II』。 ※ 分割点は安足間岳ピークの北側にある安足間岳分岐。</p>	<p>村雨の滝上～永山岳：森林限界より上の侵食ひどい、北鎮岳～お鉢平分岐：侵食・拡幅ひどい</p>	<p>土留、石組（村雨の滝上部付近）</p>	<p>概ね良</p>	<p>変化なし</p>
<p>● 主稜線上および比較的少ない利用形態を考慮し、区間分割し第1回案『B+』ではなく『A-』。保全対策第1回案どおり『II』。</p>				
<p>○ 技術的には一般向けではないが荒廃していないため『A-・II』。 ● 『安足間岳分岐⇒愛別岳分岐⇒北鎮岳』と一体的となる。</p>	<p>特に変化なし</p>	<p>なし</p>	<p>なし</p>	<p>変化なし</p>
<p>● 『滝ノ上分岐⇒安足間岳分岐』とランク同等とし、第1回案どおり『B+・II』。</p>	(二行上に同一)			

表3 H26管理水準・変更素案 適用表 (3/10) << II. 表大雪地域 その3 >>

地域	H17管理水準				H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)							
	管理水準 区間 番号	管理水準 区間	保護・ 利用 体験	保全 対策	管理 水準 区 間 番 号	管理水準区間	管理水準区間の詳細	公園 計画 路線 番号	延長 (図上計測) ※四捨五入に より合計が合 わない場合が ある	保護・ 利用 体験 ランク (図1)	保全 対策 ランク (図2)	
II 表 大 雪	11	愛山溪～ 松仙園～ 沼ノ平分岐	B	II	No11-1	松仙園方面分岐 ⇒八島分岐	松仙園方面分岐⇒松仙園方面旧 登山口分岐	(8)	1.3km	5.8km	非適用	非適用
						松仙園方面旧登山口分岐⇒松仙 園十字路⇒八島分岐	(8)	4.5km				
					No11-2	沼ノ平分岐 ⇒八島分岐 【No14-1と共に区間構成】	沼ノ平分岐⇒八島分岐	(8)	0.1km	0.1km	B-	II
	14	沼ノ平分岐～裾合 平分岐	B	I	No14-1	八島分岐 ⇒当麻乗越	八島分岐⇒当麻乗越	(9)	2.8km	2.8km	B-	II
						No14-2	当麻乗越 ⇒裾合平分岐	当麻乗越⇒裾合平分岐	(9)	1.7km	1.7km	B+
	15	裾合平分岐～姿見 の池	B	I	No15	裾合平分岐 ⇒姿見の池園地	裾合平分岐⇒姿見の池園地	(9)	2.8km	2.8km	B-	II
	16	当麻乗越 ～比布岳 分岐(安足 間岳)	B	III	No16	当麻乗越 ⇒安足間岳分岐	当麻乗越⇒安足間岳 分岐	(10)	2.7km	2.7km	B+	II
	17	間宮岳～ 中岳分岐 ～(中岳 温泉)～ 裾合平分岐	B	I	No17-2	裾合平分岐 ⇒中岳温泉	裾合平分岐⇒中岳温泉	(11)	1.6km	1.6km	B+	I
						No17-1	中岳温泉 ⇒間宮岳分岐	中岳温泉⇒中岳分岐 中岳分岐⇒間宮岳分岐	(11)	1.1km	2.1km	B+
							(3)	1.0km				
	18	勇駒別周 回	C	III	No18	勇駒別園地	勇駒別園地	(18)	8.0km	8.0km	C	III
	19	天人峡～ 勇駒別	B	II	No19	天人峡旭岳温泉登山口 ⇒勇駒別園地	天人峡旭岳温泉登山口⇒勇駒別 園地	(19)	4.8km	4.8km	B-	II
	20	天人峡～ 羽衣の 滝・敷島 の滝	C	III	No20-1	天人峡羽衣・敷島の滝入口 ⇒羽衣の滝滝見場	天人峡羽衣・敷島の滝入口⇒羽衣 の滝滝見場	(20)	0.6km	0.6km	(C)	III
					No20-2	羽衣の滝滝見場 ⇒敷島の滝	羽衣の滝滝見場⇒敷島の滝	(20)	0.8km	0.8km	(B-)	III

※今回の区間分割を明確にするため、区間順序を組み替えています(区間番号が前後しています)。

変更内容	前回調査(H13-15)時からの変化			
	荒廃 状況	歩道 整備	維持 管理	利用 環境
<p>○ : 第1回部会でのH17からの変更 ● : 第2回部会での変更・付記 ※ : その他</p>				
<p>●第1回どおり、ヤブ化が著しく利用できない現状と、管理者がいないためランク付けしないことの確認。</p>	ヤブひどい。侵食による段差部がヤブ化し危険	なし	無	松仙園方面分岐～八島分岐で通行止
<p>●姿見の池側No14-1に同等ランク『B-Ⅱ』として、北鎮岳側No12-1と姿見の池側No14-1の間を連絡させる。</p>				
<p>●登山道整備済み・荒廃状況より、第1回案は全線を『B-Ⅱ』だが、日帰りコースとしては長過ぎることから、当麻乗越で区間分割する。うち中央部『当麻乗越～裾合平分岐』は両登山口側から遠方であり、両側区間のような登山口側との往復利用区間ではないため、第1回案『B-』でなく『B+』とする。その他は第1回案『B-』のままとする。</p>	木道・階段・石組等の整備により概ね安定、植生回復、未整備箇所での侵食やぬかるみあり、階段・石組に水溜り多い	木道、階段、石組	概ね良	変化なし
<p>○保全対策は、整備の効果により安定していることから、『Ⅱ』とする。</p>	木道・階段・石組等の整備により概ね安定、未整備箇所での侵食やぬかるみあり、階段・石組に水溜り多い	木道、階段、石組	良	変化なし
<p>○単独利用でなくいずれかのルートを経ての利用(登山口から遠方)、自然環境の脆弱・潜在性・植生損失より『B+Ⅱ』。 ※分割点は安足間岳ピークの北側にある安足間岳分岐。</p>	侵食はやや進行、流出した土砂による周辺植生の損失あり	なし	手薄	変化なし
<p>○登山口より遠方、自然環境の脆弱性より『B+』。 ●保全対策は、荒廃状況の違いから中岳温泉で区間分割し、本区間は第1回案では『Ⅱ』だが木道老朽化による植生への影響から『Ⅰ』。</p>				
<p>○登山口より遠方、自然環境の脆弱・潜在性より『B+』、本区間は荒廃が著しいため。保全対策は『Ⅰ』。 ※利用形態より、中岳温泉から間宮岳分岐まではH17どおり一体区間とする。</p>	間宮岳～中岳温泉上：侵食・拡幅著しい、間宮岳～中岳分岐で石組・土留整備されたが荒廃は止まっていない	石組(中岳分岐付近)	手薄	変化なし
<p>○H17に同じ。</p>	歩道は概ね良好、北周回路は木橋の破損あり、南周回路は植生回復	階段、木道、デッキ木橋(一部破損)	良	クロスカン트리スキーコース整備中
<p>○一般観光客の利用(特に天人今日～瓢箪沼の往還)と、全体的に荒廃していないことから『B-Ⅱ』。 ●長行程であること、天人峡側の一部に崩壊がある点が挙がる。</p>	崩落部は植生回復、別の箇所が小崩落、一部区間が付替え、倒木あり	なし	良	天人峡温泉へのバス運行中止
<p>●第1回案では利用・整備状況より羽衣の滝で区間分割し『C』・『B-』だが、現時点では共に通行止のため(但し管理者は存在)、『C』・『B-』を目指す意図で『(C)』・『(B-)』。 ○保全対策は全線について一般観光客レベルを想定し『Ⅲ』。 ※分割点は、敷島の滝通行止箇所手前の羽衣の滝滝見場最奥部。</p>	調査不実施	調査不実施	調査不実施	崩落により通行止 落橋により通行止

表3 H26管理水準・変更素案 適用表 (4/10) <<Ⅲ.高根ヶ原地域>>

地域	H17管理水準				H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)							
	管理水準 区間 番号	管理水準 区間	保護・ 利用 体験	保全 対策	管理 水準 区間 番号	管理水準区間	管理水準区間の詳細	公園 計画 路線 番号	延長 (図上計測) ※四捨五入に より合計が合 わない場合が ある	保護・ 利用 体験 ランク (図1)	保全 対策 ランク (図2)	
Ⅲ 高根ヶ原	21	北海岳～ 白雲岳避 難小屋	A	II	No21	北海岳分岐 ⇒白雲岳避難小屋分岐	北海岳分岐⇒白雲岳分岐⇒白雲 岳避難小屋分岐	(12)	3.4km	3.4km	A-	I
	22	白雲岳避難 小屋～高 根ヶ原分岐 ～忠別岳	A	II	No22	白雲岳避難小屋分岐 ⇒忠別岳	白雲岳避難小屋分岐⇒高根ヶ原 分岐⇒忠別岳	(12)	8.2km	8.2km	A+	II
	23	銀泉台～ 赤岳～小 泉岳～白 雲岳	A	II	No23-1	銀泉台 ⇒赤岳	[銀泉台駐車場等部] 銀泉台駐車場⇒銀泉台トイレ [駐車場等以降延伸部] 銀泉台トイレ⇒銀泉台赤岳登山 口 銀泉台赤岳登山口⇒赤岳	(13)	0.1km	4.0km	B+	II
					No23-2	赤岳 ⇒白雲岳	赤岳⇒小泉岳分岐⇒白雲岳分岐 ⇒白雲岳	(13)	2.5km			
	24	高原温泉 ～緑岳～ 小泉岳	A	II	No24-1	高原温泉 ⇒緑岳	[駐車場等以降延伸部] 高原温泉分岐⇒高原温泉緑岳登 山口 高原温泉緑岳登山口⇒緑岳	(14)	0.2km	3.7km	B+	II
					No24-2	緑岳 ⇒板垣分岐 ⇒小泉岳分岐 ⇒白雲岳避難小屋分岐	緑岳⇒板垣分岐⇒小泉岳分岐 [板垣新道] 板垣分岐⇒(板垣新道)⇒白雲岳 避難小屋分岐	(14)	2.0km			
	25	高原温泉 (沼巡り コース)～ 高根ヶ原 分岐	B	I	No25-1	高原温泉 ⇒ヤンベ温泉分岐	[高原温泉駐車場等部] 上川町道高原温泉線終点⇒高原 温泉分岐 高原温泉分岐⇒高原温泉沼巡り コース入口⇒ヤンベ温泉分岐	(15)	0.1km	0.9km	B-	II
					No25-2	ヤンベ温泉分岐 ⇒三笠分岐 【沼巡りコース周回部】	ヤンベ温泉分岐⇒(右・北回り)⇒ 三笠分岐 ヤンベ温泉分岐⇒(左・南回り)⇒ 三笠分岐	(15)	1.8km			
					No25-3	三笠分岐 ⇒高根ヶ原分岐	[三笠新道] 三笠分岐⇒(三笠新道)⇒高根ヶ 原分岐	(15)	1.5km	1.5km	A+	II

変更内容	前回調査(H13-15)時からの変化			
	荒廃 状況	歩道 整備	維持 管理	利用 環境
<p>○ : 第1回部会でのH17からの変更 ● : 第2回部会での変更・付記 ※ : その他</p>				
○避難小屋が近いこと等、荒廃の進行が著しいことから『A-・I』。	侵食・拡幅の進行が著しい、平坦部は流出した土砂が堆積し植生損失が進行	なし	一部良	変化なし
○気象条件が厳しいこと、荒廃は一部区間を除き著しくないことから『A+・II』。	勾配が比較的急な箇所ので侵食・複雑化がやや進行、平ヶ岳周辺の洗掘区間下端で湛水ひどく植生への影響あり	木道（一部破損）、階段	一部良	変化なし
<p>○赤岳で分割し、赤岳までは『B+』、赤岳以降は主稜線と同等の『A-』。 ●赤岳での分割については、赤岳手前から気象条件（風）は厳しいが、強風時は赤岳が引き返し点という意識を利用者に持って欲しいメッセージ性を重視。 ○保全対策は、荒廃が進行しているものの整備も進められていることから『II』。</p>	全区間に亘って侵食あり、土留・階段が整備されているが、土砂は安定していない、雪田植生の荒廃ひどい	階段、木道	良	銀泉台ヒュッテ閉鎖
<p>●第1回案は全線を『B+』だが、気象条件と植生（希少な植物）の面から、緑岳で区間分割し、板垣新道を含む緑岳以北は『A-』に上げ、緑岳以南は第1回案『B+』のままとする。 ○緑岳直下で侵食拡大だが整備区間も多く『II』。</p>	緑岳山頂直下がショートカット道により複雑化・植生損失、巨石帯より下方は整備が進み概ね土砂安定	階段、木道	良	特に変化なし
<p>○三笠分岐で区間分割し、比較的短い日帰コースであることから『B-』。 ●保全対策については、沼巡りコース周回部に木道老朽化が見られるという意見はあったが、全般的に維持管理良好であることから全線を第1回案『II』とした。</p>	全般的に維持管理された歩きやすい道、ぬかるみや侵食はわずかに見られる程度	階段、石組、木道	極良	特に変化なし 三笠新道は期間通行止（春先のみ通行可）
<p>●期間通行止、急傾斜・落石で難易度が高いため、第1回案『B+』でなく分岐合流する主稜線と同等の『A+』。 ●保全対策は、木道整備箇所ではないため第1回案『II』とする。</p>				

表3 H26管理水準・変更素案 適用表 (5/10) <IV. トムラウシ山地域 その1>

地域	H17管理水準				H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)							
	管理水準 区間 番号	管理水準 区間	保護・ 利用 体験	保全 対策	管理 水準 区 間 番 号	管理水準区間	管理水準区間の詳細	公園 計画 路線 番号	延長 (図上計測) ※四捨五入に より合計が合 わない場合が ある	保護・ 利用 体験 ランク (図1)	保全 対策 ランク (図2)	
IV トム ラウ シ 山 系	26	忠別岳～ 五色岳～ 化雲岳～ トムラウ シ山	A	II	No26	忠別岳 ⇒トムラウシ山	忠別岳⇒ホンシビナイ分岐⇒忠別岳南避難小屋分岐⇒五色岳分岐	(12)	3.4km	A+	II	
							[忠別岳南避難小屋枝線] 忠別岳南避難小屋分岐⇒忠別岳南避難小屋	(12)	0.6km			
							五色岳分岐⇒化雲岳南分岐⇒ヒサゴ沼北・南分岐⇒北沼分岐⇒(東側ルート)⇒トムラウシ山	(12)	7.6km			
							[化雲岳側ルート] 化雲岳旧道東分岐／化雲岳南東分岐⇒化雲岳旧道西分岐⇒化雲岳分岐⇒化雲岳南分岐	(12)	1.0km			
							[ヒサゴ沼巻道] ヒサゴ沼北分岐⇒ヒサゴ沼避難小屋分岐⇒ヒサゴ沼南分岐	(12)	2.4km			
							[ヒサゴ沼避難小屋枝線] ヒサゴ沼避難小屋分岐⇒ヒサゴ沼避難小屋	(12)	0.2km			
	27	トムラウシ山～オプタテシケ山	A	II	No27-1	トムラウシ山⇒三川台分岐	トムラウシ山⇒(東側ルート)⇒トムラウシ東・西分岐⇒三川台分岐	(12)	4.0km	4.0km	A+	II
					No27-2	三川台分岐⇒オプタテシケ山	三川台分岐⇒オプタテシケ山	(12)	9.9km	9.9km	A+	II
	対象外	三川台コース	対象外	対象外	No27-3	台地ゲート⇒三川台分岐【三川台コース】	台地ゲート⇒台地林道・扇沼歩道分岐	(46)	1.9km	9.3km	(A+)	II
							台地林道・扇沼歩道分岐⇒扇沼山分岐	(46)	3.3km			
							扇沼山分岐⇒三川台分岐	(46)	4.1km			
	対象外	層雲峡本流林道	対象外	対象外	No28-0 (a)	ヤンベゲート⇒クチャンベツ沼ノ原登山口	ヤンベゲート⇒クチャンベツ沼ノ原登山口	(17)	8.8km	8.8km	非適用	非適用
対象外		対象外	対象外	No28-0 (b)	新道・旧道分岐⇒ニシキ沢渡渉点	[閉鎖旧道] 新道・旧道分岐⇒ニシキ沢渡渉点(新道・旧道合流)	(17)	0.5km	0.5km	非適用	非適用	
28	沼ノ原口～沼ノ原～五色ヶ原～五色岳	B	I	No28-1	クチャンベツ沼ノ原登山口⇒沼ノ原分岐	クチャンベツ沼ノ原登山口⇒(新道)⇒(木道開始点)⇒沼ノ原分岐	(17)	3.1km	3.1km	(A-)	I	
				No28-2	沼ノ原分岐⇒大沼中央部	沼ノ原分岐⇒大沼中央部	(17)	0.9km	0.9km	A-	I	
				No28-3	大沼中央部⇒五色岳分岐	大沼中央部⇒五色の水場	(17)	1.3km	6.1km	A-	I	
五色の水場⇒五色岳分岐	(17)	4.8km										

※H17管理水準対象外路線を、地理的位置により表に組み込み、区間番号を振ってあります(仮の枝番です)。

※今回の区間分割を明確にするため、区間順序を組み替えてあります(区間番号が前後しています)。

変更内容	前回調査(H13-15)時からの変化			
<p>○ : 第1回部会でのH17からの変更 ● : 第2回部会での変更・付記 ※ : その他</p>	荒廃状況	歩道整備	維持管理	利用環境
<p>○気象条件の厳しい主稜線中央部、荒廃はヒサゴ沼等一部区間を除き進行していないことから『A+・II』</p>	ヒサゴ沼への歩道が侵食進行、稜線は概ね良好で部分的に侵食やや進行した箇所あり、マーキング薄れ	木道、階段、ロープ	良	避難小屋が老朽化
<p>●三川台コースの登山道利用を前提条件とし、三川台で区間分割した上で、主稜線であることからトムラウシ山～三川台を第1回案『A-』でなく『A+』とする。三川台～オプタテシケ山は第1回案どおり『A+』。 ○保全対策は、荒廃は一部区間を除き著しくないことから『II』。</p>	トムラウシ山南側斜面の侵食進行、歩道脇等に野営の痕跡多い、双子池野営指定地の荒廃進行	手薄	手薄	南沼野営指定地に携帯トイレブース
<p>●登山道利用のためエスケープルートとしての位置付けが必要であるが、エスケープルートになりにくい・長行程であること、また林野庁意向などの確認など登山道としての位置付けに課題も残っているため、第1回案『A-』でなく、『(A+)』とする。 ●また、扇沼山分岐～硫黄沼は廃道状態であり、利用形態として台地ゲート～扇沼山分岐往復はあるもの多くはないと見られ、エスケープの位置付けを優先し、第1回案にあった扇沼山分岐での区間分割をしない。</p>	全区間で軽度の侵食が見られる、遭難対策用の道として時々刈り払い等が行われている、一般登山者の利用あり	なし	手薄	アクセス林道(上俣真布林道)に施錠ゲート及び白金側通行止 台地林道部に施錠ゲート及び車両通行止
<p>※部会検討対象外</p>				
<p>※部会検討対象外</p>				
<p>●保護・利用体験ランクについて、長行程であること、沼ノ原分岐下部に著しい荒廃があること、沼ノ原大沼周辺が湿原域で目的地となること、水場利用等を考慮し、第1回案では五色の水場で分割した。 しかし、大沼～五色の水場まで沼ノ原大沼側に含める理由に乏しく、一旦、大沼中央部で区間分割する。 ●一方、保全対策ランクの観点から、沼ノ原分岐下部の著しい荒廃について、分岐～分岐を単位として沼ノ原分岐で区間を再分割し、(28-1)クチャンベツ沼ノ原登山口⇒沼ノ原分岐は『B+』を目指す意図で『(A-)・I』とする。 ●以降、沼ノ原大沼周辺～五色岳の湿原域・雪田植生への影響を考慮し、(28-2)沼ノ原分岐⇒大沼中央部は『A-・I』、(28-3)大沼中央部⇒五色岳分岐も『A-・I』とする。</p>	沼ノ原下部急勾配箇所の侵食が大幅に進行、通行困難箇所あり、木道等の未整備箇所での侵食進行、一部の木道が老朽化	木道、階段、ロープ	手薄	アクセス林道(層雲峡本流林道)に施錠ゲート及びH25工事通行止(H26より通行可の予定) 閉鎖旧道は通行止

表3 H26管理水準・変更素案 適用表 (6/10) <IV. トムラウシ山系地域 その2>

地域	H17管理水準				H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)									
	管理水準 区間 番号	管理水準 区間	保護・ 利用 体験	保全 対策	管理 水準 区間 番号	管理水準区間	管理水準区間の詳細	公園 計画 路線 番号	延長 (図上計測) ※四捨五入に より合計が合 わない場合が ある	保護・ 利用 体験 ランク (図1)	保全 対策 ランク (図2)			
IV トムラウシ山系	29	天人峡～ 化雲岳	A	II	No29-1	天人峡化雲岳登山口 ⇒滝見台	天人峡化雲岳登山口⇒滝見台	(21)	1.0km	1.0km	B-	II		
					No29-2	滝見台 ⇒化雲岳	滝見台⇒小化雲岳直下 小化雲岳直下⇒化雲岳分岐	(21)	7.9km	10.3km	(21)	2.4km	A-	I
	30	トムラウシ 温泉～ トムラウシ 山	A	II	No30-1	短縮コース登山口 ⇒温泉・短縮コース分岐	[トムラウシ短縮コース] トムラウシ短縮コース登山口⇒ 温泉・短縮コース分岐	(47)	1.0km	1.0km	A-	II		
					No30-2	トムラウシ温泉登山口 ⇒前トム平	トムラウシ温泉登山口⇒林道・ト ムラウシ山線交差⇒温泉・短縮 コース分岐 温泉・短縮コース分岐⇒(新道)⇒ 前トム平	(37)	3.5km	8.5km	(37)	5.0km	A-	II
					No30-3	前トム平 ⇒北沼分岐	前トム平⇒トムラウシ東分岐 トムラウシ西分岐⇒(西側ルー ト)⇒北沼分岐	(37)	1.8km	2.8km	(37)	1.0km	A+	II
	対象外	対象外	対象外	No30-4	カムイ天上分岐 ⇒コマドリ沢分岐	[閉鎖旧道] カムイ天上分岐⇒コマドリ沢分 岐	(37)	1.8km	1.8km	非適用	非適用			
	32	トムラウシ 温泉周 回	C	III	No32	トムラウシ温泉登山口 ⇒霧吹ノ滝	トムラウシ温泉登山口⇒(野営地 方面)⇒林道・トムラウシ山線交 差⇒霧吹ノ滝分岐 霧吹ノ滝分岐⇒H25調査中止地点 (810m)⇒霧吹ノ滝	(38)	3.0km	3.9km	(38)	0.9km	非適用	非適用
	31	ヌブントムラウシ 温泉～沼 ノ原分岐	A	II	No31-1	ヌブントムラウシ 温泉登山口 ⇒石狩岳分岐	ヌブントムラウシ温泉登山口⇒ 石狩岳分岐	(40)	4.2km	4.2km	非適用	非適用		
					No31-2	石狩岳分岐 ⇒沼ノ原分岐	石狩岳分岐⇒沼ノ原分岐	(29)	0.8km	0.8km	A+	II		

※H17管理水準対象外路線を、地理的位置により表に組み込み、区間番号を振ってあります(仮の枝番です)。

※今回の区間分割を明確にするため、区間順序を組み替えてあります(区間番号が前後しています)。

変更内容	前回調査(H13-15)時からの変化			
	荒廃 状況	歩道 整備	維持 管理	利用 環境
<p>○ : 第1回部会でのH17からの変更 ● : 第2回部会での変更・付記 ※ : その他</p>				
<p>○滝見台の日帰観光利用を考慮し、荒廃もないことから、滝見台で区間分割し『B-Ⅱ』。</p>				
<p>○主稜線中央部からのエスケープルートであることを考慮し、また全線にわたり荒廃のため『A-Ⅰ』。</p> <p>●長行程であるものの、利用形態として天人峡～小化雲岳往復はほとんどないと見られることから、第1回案にあった小化雲岳(荒廃が箇所)での区間分割をしない。</p> <p>●保全対策は雪田草原通過から『I』と認められる。</p>	<p>風衝地の荒廃進行、小化雲付近の侵食進行著しい、周辺植生への影響あり、第二公園の荒廃ひどい、ぬかるみ・水溜りひどい</p>	<p>木道、階段、ロープ階段</p>	<p>手薄</p>	<p>天人峡温泉へのバス運行中止</p>
<p>○温泉コース側と同等とし『A-Ⅱ』。</p>	<p>軽度の侵食が続く、ぬかるみ多く倒木等を利用したぬかるみ対策あり</p>	<p>土留</p>	<p>良</p>	<p>ソーラー式バイオトイレ、駐車場増設</p>
<p>●短縮コース側を利用するなら日帰も可能な一方遭難事故も多い。荒廃はあるが付替を含む整備も進められている。以上より第1回案は全線を『A-Ⅱ』だが、気象条件を含めた主稜線との一体性を考慮し、前トム平で区間分割する。</p> <p>●うち前トム平以北は主稜線にのっており、リスクが上がることから、前トム平が一つの引き返し点という意識を利用者に持って欲しいメッセージ性を重視し、前トム平以北は第1回案『A-Ⅰ』でなく主稜線と同等の『A+』とする。</p> <p>●保全対策については、現に保全作業が進められているいるが、利用者面からの泥濘に対する歩きにくさの解消が主目的のため第1回案『Ⅱ』とする。</p> <p>●但し、現に保全作業が進められている等から、温泉・短縮コース分岐⇒(新道)⇒前トム平(及び前後)について『I』の案がある。。</p>	<p>沢沿い区間のルート付替え、登山口からコマドリ沢手前までぬかるみひどい箇所あり、未整備箇所の洗掘進行</p>	<p>階段、石組、木道、ロープ</p>	<p>良</p>	<p>特に変化なし</p>
<p>※部会検討対象外</p>	<p>調査不実施</p>	<p>調査不実施</p>	<p>調査不実施</p>	<p>閉鎖旧道は通行止</p>
<p>●第1回案では通行可能なトムラウシ温泉登山口～霧吹ノ滝をH17に同じ『C-Ⅲ』、通行止の霧吹ノ滝側は非適用だが、役場で霧吹ノ滝側を再開する予定がなく、残りの区間は林道等であるため、全線を非適用とする。</p>	<p>霧吹ノ滝通行止め、ヤブ化しルート不明瞭</p>	<p>なし</p>	<p>なし</p>	<p>霧吹ノ滝部は通行止</p>
<p>○通行止林道再開の目処が立たないため非適用。</p> <p>●但し、石狩岳分岐～沼ノ原分岐は、石狩岳縦走線の区間No47-2と同等の『A+Ⅱ』とする。</p>	<p>調査不実施 (石狩岳分岐⇒沼ノ原分岐区間は実施)</p>	<p>調査不実施 (同左)</p>	<p>調査不実施 (同左)</p>	<p>アクセス林道(ヌブントムラウシ林道)は通行止</p>

表3 H26管理水準・変更素案 適用表 (7/10) <<V.十勝岳地域 その1>>

地域	H17管理水準				H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)							
	管理水準 区間 番号	管理水準 区間	保護・ 利用 体験	保全 対策	管理 水準 区間 番号	管理水準区間	管理水準区間の詳細	公園 計画 路線 番号	延長 (図上計測) ※四捨五入に より合計が合 わない場合が ある	保護・ 利用 体験 ランク (図1)	保全 対策 ランク (図2)	
V 十勝岳	33	オプタテシケ山～ 美瑛岳～ 十勝岳	A	II	No33-1	オプタテシケ山 ⇒十勝岳分岐	オプタテシケ山⇒十勝岳東分岐 ⇒十勝岳分岐	(12)	9.0km	9.0km	A-	II
					No33-2	美瑛富士避難小屋南東分岐 ⇒美瑛富士避難小屋分岐	[美瑛富士避難小屋枝線] 美瑛富士避難小屋南東分岐⇒美 瑛富士避難小屋分岐	(12)	0.2km	0.2km	B+	I
					No33-3	美瑛富士分岐 ⇒美瑛富士	[美瑛富士枝線] 美瑛富士分岐⇒美瑛富士	(12)	0.6km	0.6km	A-	II
	34	十勝岳～ 富良野岳	B	I	No34-1	十勝岳分岐 ⇒上ホロ山北分岐 ⇒上ホロ山南分岐 ⇒上富良野岳	十勝岳分岐⇒上ホロ山北分岐⇒ 上ホロカメットク山⇒上ホロ山 南分岐⇒上富良野岳分岐 [上ホロ巻道] 上ホロ山北分岐⇒(上ホロ巻道) ⇒上ホロ山南分岐	(12)	2.4km	3.3km	A-	II
					No34-2	上富良野岳分岐 ⇒富良野岳分岐	上富良野岳分岐⇒富良野岳分岐	(12)	2.5km			
					No34-3	富良野岳分岐 ⇒富良野岳	富良野岳分岐⇒富良野岳	(12)	0.7km	0.7km	B+	I
	35	富良野岳 ～登山口	A	II	No35	富良野岳 ⇒布札別登山口	富良野岳⇒三ノ沢分岐⇒連絡路 出口(林間コース)⇒布札別登山 口分岐⇒布札別登山口	(12)	6.5km	6.5km	A-	II
	36	白金温泉 口～美瑛 富士	B	II	No36-1	湊沢ゲート ⇒天然庭園入口	湊沢ゲート⇒美瑛富士登山口 [美瑛富士登山口駐車場枝線] 美瑛富士登山口⇒美瑛富士登山 口駐車場 美瑛富士登山口⇒天然庭園入口	(22)	1.9km	5.1km	B+	II
					No36-2	天然庭園入口 ⇒美瑛富士小屋南西分岐	天然庭園入口⇒美瑛富士避難小 屋分岐⇒美瑛富士避難小屋南西 分岐	(22)	2.9km			
37	白金温泉 ～望岳台 ～十勝岳	B	II	No37-1	白金温泉望岳台歩道口 ⇒望岳台	白金温泉望岳台歩道口⇒望岳台	(23)	3.1km	3.1km	B-	II	
				No37-2	望岳台 ⇒十勝岳分岐	望岳台⇒望岳台南分岐⇒望岳台 南東分岐⇒十勝岳避難小屋西分 岐⇒十勝岳分岐	(23)	5.1km	5.1km	B+	II	
38	望岳台～ 吹上温泉 ～十勝岳 温泉	C	III	No38-1	吹上温泉登山口分岐 ⇒泥流分岐 ⇒望岳台南分岐 ⇒望岳台南東分岐	吹上温泉十勝岳・三段山登山口分 岐⇒泥流分岐⇒望岳台南分岐 望岳台南東分岐⇒泥流分岐	(24)	1.9km	2.7km	B-	II	
				No38-2	十勝岳温泉西分岐 ⇒旧国民宿舎北分岐 ⇒旧国民宿舎 ⇒十勝岳温泉	十勝岳温泉西分岐⇒旧国民宿舎 北分岐⇒十勝岳温泉(旅館旧館) [旧国民宿舎枝線] 旧国民宿舎⇒旧国民宿舎北分岐	(24)	1.3km				1.4km
							(24)	0.1km				

変更内容	前回調査(H13-15)時からの変化			
<p>○ : 第1回部会でのH17からの変更 ● : 第2回部会での変更・付記 ※ : その他</p>	<p>荒廃 状況</p>	<p>歩道 整備</p>	<p>維持 管理</p>	<p>利用 環境</p>
<p>○主稜線であること、途中エスケープできること、荒廃は一部区間を除き進行していないことから『A-Ⅱ』。</p> <p>●但し『美瑛富士避難小屋枝線』は、主稜線に合流する(22)美瑛富士線のうち並行する区間と同等とし『B+・I』。</p> <p>●同じく『美瑛富士避難小屋枝線』の保全対策は、特に脆い地質条件(スコリア系)より路体崩壊の恐れがあるため『I』。</p> <p>●また『美瑛富士枝線』は、ルートが明確でないことを考慮した上で、主稜線と同等とし『A-Ⅱ』。</p>	<p>オプタテシケ山からベベツ岳 南西斜面、美瑛岳北斜面が中 度の侵食、侵食やや進行</p>	<p>なし</p>	<p>手薄</p>	<p>変化なし</p>
<p>○主稜線であるが、うち上富良野岳～富良野岳は吹上温泉や十勝岳温泉からの日帰利用もあり利用形態が異なる。また荒廃は進んでいないが富良野岳側は著しい。以上より上富良野岳で区間分割し、十勝岳側の当区間は『A-Ⅱ』。</p> <p>●吹上温泉や十勝岳温泉からの日帰の周回利用があるため、第1回案では『B+』とした。しかし、主稜線であることから『A-』という考え方もある。第1回案『B+』を提示し決定は留保。</p> <p>●荒廃が著しく植生影響が懸念されるのは特に富良野岳側のため、更に区間分割し、上富良野岳側は第1回案『I』でなく『Ⅱ』、富良野岳側は第1回案『I』のままとする。</p>	<p>富良野岳東側斜面の荒廃ひどく 侵食進行、上ホロカメットク 山東側稜線の荒廃進行、整備 済み区間は概ね土砂安定</p>	<p>階段、木道、 ロープ柵</p>	<p>良</p>	<p>変化なし</p>
<p>○上部ルートがわかりにくいこと、荒廃は一部区間を除き進行していないことから主稜線として『A-Ⅱ』。</p>	<p>富良野岳の直下の荒廃はほと んど進行していない、湿原で は植生回復、三の沢分岐付近 のぬかるみひどい</p>	<p>なし</p>	<p>良</p>	<p>変化なし</p>
<p>●比較的長い日帰コース、荒廃の進行度より、第1回案にあった天然庭園での区間分割を行うものとし、荒廃が進行していない下部側の当区間は『B+・Ⅱ』。</p> <p>※区間分割は天然庭園入口部とする。</p>	<p>全体的に中～軽度の侵食が続 く、階段等の底抜けも見られ る、浸食進行</p>	<p>木道、階段</p>	<p>良</p>	<p>アクセス林道 (潤沢林道)に 施錠ゲート</p>
<p>●天然庭園で区間分割した上で、荒廃が進行している上部側の当区間は第1回案どおり『B+・I』。</p> <p>●保全対策は特に脆い地質条件(スコリア系)より『I』。</p>				
<p>●第1回案では望岳台で区間分割し下部側は『C』だが、半日コースとしては長行程を考慮し、『B-』。</p> <p>○上部側は旭岳・黒岳よりも難易度が高いため、『B+』。</p> <p>○保全対策は下部ガリーを除き良好な道なので上・下区間共に『Ⅱ』。</p>	<p>最下部区間で大きなガリーが 生じている、歩道は概ね良好</p>	<p>なし</p>	<p>良</p>	<p>変化なし</p>
<p>○他路線にアクセスする比較的短い利用であること、良好な道なので『B-Ⅱ』</p> <p>※部会では分割されなかったが、現状では区間が大きく2つの区間(領域)に分かれていることから、別区間とした。</p>	<p>ほとんど荒廃は見られない、 歩きやすい道</p>	<p>階段</p>	<p>良</p>	<p>変化なし</p>

表3 H26管理水準・変更素案 適用表 (8/10) <<V.十勝岳地域 その2>>

地域	H17管理水準				H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)							
	管理水準 区間 番号	管理水準 区間	保護・ 利用 体験	保全 対策	管理 水準 区間 番号	管理水準区間	管理水準区間の詳細	公園 計画 路線 番号	延長 (図上計測) ※四捨五入に より合計が合 わない場合が ある	保護・ 利用 体験 ランク (図1)	保全 対策 ランク (図2)	
V 十勝 岳	39	十勝岳避難小屋～美瑛岳・美瑛富士分岐	B	II	No39-1	十勝岳避難小屋西分岐 ⇒勝瑛ノ滝	十勝岳避難小屋西分岐⇒勝瑛ノ滝	(25)	2.3km	2.3km	B+	II
					No39-2	勝瑛ノ滝 ⇒美瑛岳西分岐 ⇒美瑛富士分岐 ⇒美瑛岳東分岐	勝瑛ノ滝⇒美瑛岳西分岐	(25)	0.9km	4.0km	B+	I
							美瑛岳西分岐⇒美瑛富士分岐	(25)	1.7km			
					美瑛岳西分岐⇒美瑛岳東分岐	(25)	1.4km					
	40	吹上温泉～三段山～十勝岳温泉	C	III	No40	吹上温泉 ⇒十勝岳温泉東分岐	[吹上温泉駐車場等部] 吹上温泉駐車場等⇒登山口方面 階段部	(26)	0.2km	4.7km	(B+)	II
							[駐車場等以降延伸部] 登山口方面階段部⇒吹上温泉十 勝岳・三段山登山口分岐	(26)	0.1km			
							吹上温泉十勝岳・三段山登山口分 岐⇒三段山(ピーク分岐)	(26)	3.0km			
							三段山(ピーク分岐)⇒十勝岳温 泉東分岐	(26)	1.4km			
	41	十勝岳温泉～縦走路分岐(富良野岳)～縦走路分岐(上和カヅツ山)	B	II	No41-1	十勝岳温泉 ⇒上ホロ分岐 ⇒上富良野岳分岐 ⇒富良野岳分岐	十勝岳温泉(旅館新韓)⇒上ホロ 分岐	(27)	2.2km	5.6km	B+	II
							上ホロ分岐⇒上富良野岳分岐	(27)	1.5km			
上ホロ分岐⇒富良野岳分岐							(27)	1.9km				
				No41-2	安政火口分岐 ⇒安政火口	[安政火口枝線] 安政火口分岐⇒安政火口	(27)	0.3km	0.3km	非適用	非適用	
				No41-3	石碑分岐 ⇒石碑	[石碑枝線] 石碑分岐⇒石碑	(27)	0.1km	0.1km	非適用	非適用	
42	登山口～十勝岳	B	II	No42	新得コース十勝岳登山口 ⇒十勝岳東分岐	新得コース十勝岳登山口⇒十勝 岳東分岐	(39)	7.0km	7.0km	A-	II	
43	縦走路分岐～原始ヶ原(五反沼・勝竜ノ滝)	B	II	No43-1	三ノ沢分岐 ⇒滝・沼コース分岐 ⇒五反沼 ⇒勝竜ノ滝	三ノ沢分岐⇒滝・沼コース分岐⇒ H25調査中止地点(1060m)⇒五反 沼	(1)	2.9km	3.3km	非適用	非適用	
						滝・沼コース分岐⇒勝竜ノ滝	(1)	0.4km				
対象 外	沢(滝) コース	対象 外	対象 外	No43-2	布札別登山口分岐 ⇒勝竜・赤岩ノ滝分岐 ⇒勝竜ノ滝 ⇒赤岩ノ滝	布札別登山口分岐⇒連絡路入口 ⇒勝竜・赤岩ノ滝分岐⇒勝竜ノ滝	(45)	2.8km	3.2km	非適用	非適用	
						勝竜・赤岩ノ滝分岐⇒赤岩ノ滝	(45)	0.2km				
						[林間コース(主稜線)連絡路] 連絡路入口(沢(滝)コース)⇒連 絡路出口(林間コース)	(45)	0.2km				

※H17管理水準対象外路線を、地理的位置により表に組み込み、区間番号を振ってあります(仮の枝番です)。

変更内容	前回調査(H13-15)時からの変化			
<p>○ : 第1回部会でのH17からの変更 ● : 第2回部会での変更・付記 ※ : その他</p>	荒廃状況	歩道整備	維持管理	利用環境
<p>○比較的長い日帰コース、荒廃の進行度より、勝瑛ノ滝で区間分割し、当区間は『B+・II』。</p> <p>●勝瑛ノ滝で区間分割した上で、特に脆い地質条件(スコリア系)の当区間は『B+・I』。</p>	美瑛岳西側斜面で侵食進行が見られる、その他区間は概ね良好	なし	良	変化なし
<p>●比較的長行程であることから、第1回案『B-』でなく『B+』とするが、現状では三段山～十勝岳温泉東分岐は通行止、一方整備予定(整備後解除予定)があることから、『B+』を目指す意図で『(B+)』。</p> <p>●但し、(三段山～十勝岳温泉東分岐は『(B+)』としても)吹上温泉～三段山は緩やかであり『B-』という考え方もある。</p> <p>●保全対策は第1回案『II』とする。</p>	吹上温泉から三段山までは概ね良好、土留や階段は老朽化、三段山から十勝岳温泉分岐は通行止め、ヤブ化ひどい	階段、土留	良 (三段山～十勝岳温泉東分岐を除く)	三段山～十勝岳温泉東分岐は通行止(H26整備予定)
<p>○日帰コースとして比較的長行程、荒廃はあるが整備も進められており、『B+・II』。</p> <p>●本来の登山道ではなく、落石による通行止の『安政火口枝線』区間、及び(安政火口に続いている)『石碑枝線』は非適用。 (但し『石碑枝線』自体は通行止ではない)</p>	比較的急勾配の未整備箇所での侵食進行、道幅広い下部区間で侵食進行、整備済み区間は概ね安定、一部階段に底抜けあり	階段、土留	良	変化なし 安政火口枝線は通行止・石碑枝線の先(安政火口側)は通行止
<p>●良好な道であるが、長行程で歩行困難箇所があることから、第1回案『B+』でなく『A-』。</p> <p>●保全対策は第1回案『II』とする。</p>	わずかに侵食は認められるが概ね良好	なし	良	複数のアクセス林道うちレイサクベツ林道通行止
<p>○樹林地ではヤブ化がひどく、湿原部はルート不明といった現状より、非適用。</p>	ヤブ化等(一部のみ調査実施)	なし(同左)	なし(同左)	変化なし
<p>○崩落による通行止、合流する原始ヶ原線の現状を考慮し、非適用。</p>	調査不実施	調査不実施	調査不実施	崩落により通行止

表3 H26管理水準・変更素案 適用表 (9/10) <<VI. 東大雪地域 その1>>

地域	H17管理水準				H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)							
	管理水準 区間番号	管理水準 区間	保護・ 利用体験	保全 対策	管理 水準 区間 番号	管理水準区間	管理水準区間の詳細	公園 計画 路線 番号	延長 (図上計測) ※四捨五入に より合計が合 わない場合が ある		保護・ 利用 体験 ランク (図1)	保全 対策 ランク (図2)
VI 東大雪	44	登山口～ ユニ石狩岳	B	II	No44-1	ポン油仁石狩沢登山口 ⇒十石峠分岐	ポン油仁石狩沢登山口⇒H25調査 中止地点(1380m)⇒十石峠分岐	(16)	2.8km	2.8km	非適用	非適用
					No44-2	十石峠分岐 ⇒ユニ石狩岳 【No45と共に区間構成】	十石峠分岐⇒ユニ石狩岳	(16)	0.7km	0.7km	B+	II
	45	十勝三股 口～十石 峠(ユニ石 狩岳)	B	II	No45	十勝三股登山口 ⇒十石峠分岐	十勝三股登山口⇒十石峠分岐	(29)	4.6km	4.6km	B+	II
	46	十石峠～ 音更山～ 石狩の肩	B	II	No46	十石峠分岐 ⇒シュナイダー分岐	十石峠分岐⇒音更山⇒シュナイ ダー分岐	(29)	4.6km	4.6km	A-	II
	47	シュナイ ダー口～ 石狩岳～ 沼ノ原手 前分岐	A	II	No47-1	シュナイダー登山口 ⇒石狩岳北ピーク	シュナイダー登山口⇒シュナイ ダー分岐 シュナイダー分岐⇒石狩岳北 ピーク	(29)	4.1km	4.8km	B+	II
					No47-2	石狩岳北ピーク ⇒石狩岳分岐	石狩岳北ピーク⇒石狩岳分岐	(29)	8.0km	8.0km	A+	II
	48	杉の沢出 合～前天 狗岳	B	II	No48	十六ノ沢登山口 ⇒ニベソツ山	十六ノ沢登山口⇒前天狗岳北分 岐⇒(西側ルート)⇒前天狗岳南 分岐 前天狗岳南分岐⇒天狗岳⇒ニベ ソツ山	(28)	4.6km	6.7km	A-	II
	49	幌加温泉 ～天狗岳 ～ニベソ ツ山	B	II	No49	幌加温泉登山口 ⇒前天狗岳東分岐 ⇒前天狗岳北分岐 ⇒前天狗岳南分岐	幌加温泉登山口⇒H25調査中止地 点(850m) H25調査中止地点(850m)⇒前天 狗岳東分岐 前天狗岳北分岐⇒前天狗岳東分 岐 前天狗岳東分岐⇒前天狗岳南分 岐	(28)	2.3km	9.3km	A-	III

変更内容	前回調査(H13-15)時からの変化			
<p>○ : 第1回部会でのH17からの変更 ● : 第2回部会での変更・付記 ※ : その他</p>	荒廃状況	歩道整備	維持管理	利用環境
<p>○通行止林道再開の目処が立たないため、非適用。 ●十石峠～ユニ石狩岳は利用可能なため、十石峠で区間分割し、十石峠～ユニ石狩岳は(29)石狩岳縦走線の接続する区間と同等の『B+・II』とする。</p>	林道通行止めのため鳴瑠園まで調査、一部ヤブ化しているが大きな変化はない	なし	なし	アクセス林道(ボン由仁石狩林道)に施設ゲート及び通行止
<p>○管理されておらずヤブ化は進行しているが、荒廃は進行していないため『B+・II』。</p>	倒木・ヤブ化が進行	なし	手薄	変化なし
<p>○各登山口に対して中央部、ヤブ化により日帰困難なため、『A-』。なお保全対策は前後と同じ『II』。</p>	ヤブ化した区間はあるが大きな変化はない	なし	手薄	変化なし
<p>○石狩岳で区間分割し、比較的長い日帰コースとみなす。荒廃は進行していないため『B+・II』。</p>	シュナイダールートは倒木・ヤブ化がやや進行、根曲り廊下刈り払い済み、部分的な侵食はあるが大きな変化はない	なし	手薄	協働型管理の取組みで刈り払い
<p>○沼ノ原まで続く長いルートであること、現在は刈払い済みだがヤブ化を前提とすること、一方、荒廃は進行していないため『A+・II』。</p>				
<p>○十六の沢登山口(渡渉点としての杉の沢出合の手前にある登山口として)～ニベツツ山をメインルートとして区間変更。 ○荒廃が進行しており、『A-・II』。</p>	樹林帯の侵食進行、大きな段差が続き歩きにくい	土留	良	変化なし
<p>●ヤブ化によりルート不明瞭で第1回案では非適用だが、登山道としての位置付けが望まれていること、メインルートなみの長行程のため『A-』。 ●保全対策については、実情を考慮し、『III』。</p>	幌加温泉側850m付近から前天狗岳東分岐までヤブ化ひどくルート不明瞭、前天狗岳分岐から山頂までは大きな変化なし	なし	なし (前天狗岳東分岐⇒前天狗岳南分岐については良)	前天狗岳に携帯トイレブース

表3 H26管理水準・変更素案 適用表 (10/10) <<VI. 東大雪地域 その2>>・<<VII. 糠平然別地域>>

地域	H17管理水準				H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)							
	管理水準 区間 番号	管理水準 区間	保護・ 利用 体験	保全 対策	管理 水準 区 間 番 号	管理水準区間	管理水準区間の詳細	公園 計画 路線 番号	延長 (図上計測) ※四捨五入に より合計が合 わない場合が ある	保護・ 利用 体験 ランク (図1)	保全 対策 ランク (図2)	
VI 東大雪	50	糠平登山口～ウベペサンケ山	B	II	No50	糠平登山口 ⇒ウベペサンケ山西ピーク	[糠平仮歩道] 糠平仮登山口⇒糠平仮歩道分岐 糠平登山口⇒林道交差 林道交差⇒糠平仮歩道分岐 糠平仮歩道分岐⇒菅野温泉東分岐 ⇒ウベペサンケ山西ピーク	(30) (30) (30) (30)	0.5km 0.1km 0.1km 6.5km	7.1km	B+	II
	51	菅野温泉登山口～コース分岐	B	II	No51-1	菅野温泉東登山口 ⇒菅野温泉東分岐	菅野温泉東登山口⇒菅野温泉東分岐	(32)	2.1km	2.1km	非適用	非適用
	対象外	菅野温泉西コース	対象外	対象外	No51-2	菅野温泉西登山口 ⇒ウベペサンケ山西ピーク	菅野温泉西登山口⇒ウベペサンケ山西ピーク [1386mコル直下巻道] コル下部分岐⇒コル上部分岐	(44) (44)	4.0km 0.3km	4.4km	非適用	非適用
VII 糠平然別	52	糠平天宝山	C	III	No52-1	不二川登山口 ⇒天宝山	不二川登山口⇒天宝山	(31)	1.0km	1.0km	C	III
	対象外	北海道自然歩道線	対象外	対象外	No52-2	軌道跡トンネル ⇒メトセツ	軌道跡トンネル⇒鉄道資料館⇒メトセツ	(41)	8.2km	8.2km	非適用	非適用
					No52-3	国道・林道交差 ⇒タウンシュベツアーチ橋	国道・林道交差⇒北側ゲート⇒タウンシュベツアーチ橋	(41)	4.3km	4.3km	非適用	非適用
	53	然別湖～南ペトウトル山	B	II	No53	然別温泉登山口 ⇒南ペトウトル山	然別温泉登山口⇒南ペトウトル山	(33)	2.0km	2.0km	B-	III
	54	天望山周回	B	II	No54	白雲橋登山口 ⇒白雲山分岐 ⇒ヌブカの里登山口	白雲橋登山口⇒(周回・白雲山分岐)⇒白雲橋登山口	(34)	8.7km	10.6km	B-	III
ヌブカの里登山口⇒白雲山分岐							(34)	1.9km				
55	駒止湖～東ヌブカウシヌプリ	B	II	No55	駒止湖口 ⇒東ヌブカウシヌプリ	駒止湖口⇒白樺峠登山口 白樺峠登山口⇒東ヌブカウシヌプリ	(35) (35)	0.9km 1.3km	2.2km	B-	III	
56	西ヌブカウシヌプリ	C	III	No56	扇ヶ原登山口 ⇒西ヌブカウシヌプリ	扇ヶ原登山口⇒西ヌブカウシヌプリ	(36)	1.7km	1.7km	B-	III	

※H17管理水準対象外路線を、地理的位置により表に組み込み、区間番号を振ってあります(仮の枝番です)。

変更内容	前回調査(H13-15)時からの変化			
	荒廃 状況	歩道 整備	維持 管理	利用 環境
○ : 第1回部会でのH17からの変更 ● : 第2回部会での変更・付記 ※ : その他				
○比較的最長い日帰コースとして『B+・II』。	登山口付近でルート付替え、 倒木増だが大きな変化はない、 植生回復が認められる	なし	手薄	林道一時通行止、ひがし大雪自然館
○通行止林道再開の目処が立たないため非適用。	調査不実施	調査不実施	調査不実施	アクセス林道(ユウヤンベツ林道・然別林道)通行止
○通行止林道再開の目処が立たないため非適用。	調査不実施	調査不実施	調査不実施	アクセス林道(支然別支線林道・然別林道)通行止
○H17に同じ。	大きな変化はない、良好な歩きやすい道	なし	良	ひがし大雪自然館
○軌道跡の歩道および林道(歩車)であり、他路線とは性格が異なり、非適用。 ※部会では分割されなかったが、現状では区間が大きく2つの区間(領域)に分かれていることから、別区間とした。	糠平湖周囲の約8km区間が開通、状態は概ね良好	公園整備、階段	良	軌道跡、園地整備、ひがし大雪自然館
	調査不実施	調査不実施	調査不実施	(アクセス)林道(糠平三股林道)に施錠ゲート
○比較的最短い日帰コース、荒廃は進んでいないことから、『B-・II』。	倒木・ヤブ化が進行	なし	手薄	変化なし
○比較的最短い日帰コース、荒廃は進んでいないことから、『B-・II』。	倒木が増加、前回同様ヤブ化区間は多い	なし	手薄	変化なし
○比較的最短い日帰コース、荒廃は進んでいないことから、『B-・II』。	倒木・ヤブ化進行	なし	手薄	変化なし
○比較的最短い日帰コース、荒廃は進んでいないことから、『B-・II』。	ヤブ化が進行	なし	手薄	変化なし

表4 要検討箇所等一覧表 (1/2)

地域	H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)					
	管理水準区間番号	管理水準区間	管理水準区間の詳細 (関連する箇所のみを抜粋)	保護利用体験ランク (図1)	保全対策ランク (図2)	要検討・要注意の内容
I 北大雪	No1-1	層雲峡園地パノラマ台入口 ⇒パノラマ台	層雲峡園地パノラマ台入口⇒パノラマ台登山口⇒パノラマ台分岐 [パノラマ台枝線] パノラマ台分岐⇒パノラマ台	(B-)	I	(パノラマ台上部はルート不明瞭等のため非適用とした上で)パノラマ台までは、刈払しても急斜面で誰でも行けるわけではなく、パノラマ台は断崖で危険性が高く柵設置等対策も困難で、管理に当たり地元の協力も必要です。 このため保護・利用体験ランクは、『B-』を目指す意図で『(B-)』としています。 また保全対策は、荒廃が集中し道利用の消失につながる恐れがあるため『I』としています。
	No5 (うち)	層雲峡黒岳林道口 ⇒黒岳	層雲峡黒岳登山口分岐⇒黒岳	B-	II	保護・利用体験ランク区間分割について、下記の①・②の案があります。利用実態調査結果を考慮する方針で、保留状態です。 ①黒岳で気象条件が変わるため、黒岳で分割(現在の提示案です)。 ②黒岳石室がゴールという考え方で、黒岳石室分岐で分割(黒岳石室分岐までが『B-』の案です)。
II 表大雪	No6-1	黒岳 ⇒黒岳石室分岐	黒岳⇒黒岳石室分岐	B+	II	
	No10	愛山溪雲井ヶ原登山口 ⇒雲井ヶ原湿原	愛山溪温泉雲井ヶ原登山口⇒雲井ヶ原湿原	(C)	I	木道再整備予定であり、保護・利用体験ランクは『C』を目指す意図で括弧付きの『(C)』とし、保全対策ランクは『I』としています。
	No13 (うち)	愛山溪雲井ヶ原登山口 ⇒三十三曲分岐 ⇒沼ノ平分岐 ⇒滝ノ上分岐	三十三曲分岐⇒(右・西回り)⇒沼ノ平分岐	B-	II	整備の効果が見られるため、保全対策ランクについて、『II』でなく『III』とする案があります。
			三十三曲分岐⇒(左・東回り)⇒滝ノ上分岐	B-	II	現状と管理が手薄の点から、保護・利用体験ランクについて、『B-』でなく(北鎮岳までと同等の)『B+』という案があります。
	No19	天人峡旭岳温泉登山口 ⇒勇駒別園地	天人峡旭岳温泉登山口⇒勇駒別園地	B-	II	保護・利用体験ランクは『B-』としていますが、長行程であること、天人峡側の一部に崩壊があり、若干の検討を要します。
	No20-1	天人峡羽衣・敷島の滝入口 ⇒羽衣の滝滝見場	天人峡羽衣・敷島の滝入口⇒羽衣の滝滝見場	(C)	III	現時点では共に通行止ですが、管理者がいるため、『C』・『B-』を目指す意図で括弧付きの『(C)』・『(B-)』としています。
	No20-2	羽衣の滝滝見場 ⇒敷島の滝	羽衣の滝滝見場⇒敷島の滝	(B-)	III	
IV トムラウシ山系	No27-3	台地ゲート ⇒三川台分岐 【三川台コース】	台地ゲート⇒台地林道・扇沼歩道分岐 台地林道・扇沼歩道分岐⇒扇沼山分岐 扇沼山分岐⇒三川台分岐	(A+)	II	エスケーブルートとしての登山道利用を前提に議論しましたが、実際にはエスケーブルートにはなりづらいこと・主線トムラ最深处とのつながりから、保護・利用体験ランクは(本来的には)『A+』にすることをしました。 しかし、登山道としての位置付けは未確定で、議論があると思われるため、括弧付きの『(A+)』としてあります。

表4 要検討箇所等一覧表 (2/2)

地域	H26管理水準・変更素案 (第1～2回部会結果による)				要検討・要注意の内容	
	管理水準区間番号	管理水準区間	管理水準区間の詳細 (関連する箇所のみを抜粋)	保護・利用体験ランク		保全対策ランク
IV トムラウシ山系	No28-1	クチャンベツ沼ノ原登山口⇒沼ノ原分岐	クチャンベツ沼ノ原登山口⇒(新道)⇒(木道開始点)⇒沼ノ原分岐	(A-)	I	<p>アクセスとなる層雲峡本流林道はH26に通行止解除予定があります。</p> <p>保護・利用体験ランクについて延長・荒廃状況等を考慮し、大沼中央部で分割することを意図しています。</p> <p>一方、保全対策ランクの観点から、沼ノ原分岐の下部側の著しい荒廃による路体崩壊の恐れと、上部側の植生への影響という異なる要素が見られることから、沼ノ原分岐での分割を意図しています(ランク自体は全て『I』と考えています)。</p> <p>結果的に、No28-1は『B+』を目指す意図で『(A-)・I』とし、No28-2とNo28-3は『A-・I』としています。</p>
	No28-2	沼ノ原分岐⇒大沼中央部	沼ノ原分岐⇒大沼中央部	A-	I	
	No28-3	大沼中央部⇒五色岳分岐	大沼中央部⇒五色の水場 五色の水場⇒五色岳分岐	A-	I	
	No30-2	トムラウシ温泉登山口⇒前トム平	温泉・短縮コース分岐⇒(新道)⇒前トム平	A-	II	<p>この区間(及び前後の区間)では、整備・保全作業が進められていますが、路体崩壊や植生影響への対策ではなく、利用者の利便性の面で泥濘に対する歩きにくさの解消が主目的のため、保全対策ランクは『II』としました。</p> <p>しかし、実際に整備・保全作業が進められていること・エスケープルートであることから、『I』という案があります。</p>
V 十勝岳	No33-2	美瑛富士避難小屋南東分岐⇒美瑛富士避難小屋分岐	[美瑛富士避難小屋枝線] 美瑛富士避難小屋南東分岐⇒美瑛富士避難小屋分岐	B+	I	<p>下欄のNo36-2と同等の区間として保全対策ランク『I』としています(保護・利用体験ランク『B+』も同様です)。</p>
	No34-2	上富良野岳分岐⇒富良野岳分岐	上富良野岳分岐⇒富良野岳分岐	B+	II	<p>保護・利用体験ランクについて、①・②の案があります。第2回部会で最も議論された点で、保留状態です。</p> <p>①吹上温泉や十勝岳温泉からの日帰りの周回利用があることから『B+』(現在の提示案です)。</p> <p>②主稜線であり利用者へのリスクの喚起・アピールとして『A-』。</p> <p>なお保全対策ランクについては、荒廃が著しく植生影響が懸念されるのは特に富良野岳側のため、富良野岳側No34-3のみを『I』としています。</p>
	No34-3	富良野岳分岐⇒富良野岳	富良野岳分岐⇒富良野岳	B+	I	
	No36-2	天然庭園入口⇒美瑛富士小屋南西分岐	天然庭園入口⇒美瑛富士避難小屋分岐⇒美瑛富士避難小屋南西分岐	B+	I	
	No39-2	勝瑛ノ滝⇒美瑛岳西分岐⇒美瑛富士分岐⇒美瑛岳東分岐	勝瑛ノ滝⇒美瑛岳西分岐 美瑛岳西分岐⇒美瑛富士分岐 美瑛岳西分岐⇒美瑛岳東分岐	B+	I	<p>それぞれ、天然庭園入口、勝瑛ノ滝の上部側が荒廃が進行していること、及び特に脆い地質条件(スコリア系)より路体崩壊につながる恐れがあることから、保全対策ランクの観点から区間分割を行い『I』としています。</p> <p>但し現状では、他の『I』の区間ほど荒廃しが著しいという状況ではないと考えられます。</p>
	No40	吹上温泉⇒十勝岳温泉東分岐	[吹上温泉駐車場等部] 吹上温泉駐車場等⇒登山口方面階段部 [駐車場等以降延伸部] 登山口方面階段部⇒吹上温泉十勝岳・三段山登山口分岐 吹上温泉十勝岳・三段山登山口分岐⇒三段山(ピーク分岐) 三段山(ピーク分岐)⇒十勝岳温泉東分岐	(B+)	II	<p>比較的長行程であることから、『B+』とした上で、現状では三段山～十勝岳温泉東分岐は通行止、一方整備予定(整備後解除予定)があることから、『B+』を目指す意図で『(B+)』としています。</p> <p>但し、(三段山～十勝岳温泉東分岐は『(B+)』としても)吹上温泉～三段山は緩やかであり『B-』という案があります。</p>
No41-3	石碑分岐⇒石碑	[石碑枝線] 石碑分岐⇒石碑	非適用	非適用	<p>本来の登山道ではなく、落石による通行止の『安政火口枝線』と同様とし、(安政火口に続いている)『石碑枝線』も『非適用・非適用』としていますが、『石碑枝線』自体は通行止ではありません。</p>	

